

1. 学校の教育目標

<p>心ゆたかに たくましく 豊かな感性をもち表現する子どもを育てる。 自分も友達も大切にすることを育てる。 自ら考え、生き生きと遊べる環境をつくる。 一人ひとりの発達の特性に応じた総合的な指導を行う。</p>

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

<p>①緊急時における対応は様々な想定をして訓練を行う。コロナ感染防止の対応は常に見直ししながら取り組む。 ②今年度努力目標「幼稚園っていいな 友達っていいな ~運動遊びを通して、友達と一緒に体も心も心のびのびと楽しめる環境を考える~」の達成に向けて、多様な体の動きができるような様々な運動遊びや思わず動きたくなるような環境を考え、一人ひとりを大切にしたい集団づくりも念頭において、保育に取り組む。 ③職員の資質向上については、園内研修の充実を図る。</p>

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
①安全管理体制の確立	B	様々な想定、時間帯、職員の役割等確認しながら進めた。コロナ感染防止の為の対応は、常に改善を図り、危機感を持って各年齢に合わせた取り組みをした。
②努力目標達成	B	一人ひとりを見据えて、クラスの実態を明らかにし、それに合わせて1年を見通した様々な運動遊びやスモールステップで取り組む工夫をした。
③職員の資質向上。	B	園内研修にて、資質能力の「3つの柱」を観点に子供の姿を分析して、協議を重ねた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>①コロナ感染防止の為の対応では、年齢、気候等を考慮して常に改善を図った。コロナ禍2年目で制限された中での成果と課題が明白になり、今後の取り組みの工夫をより考えなければならない。 ②一人ひとりの発達課題やクラスの実態に合わせた取り組みが出来、1年間を見通した運動遊びに取り組むことで、友達と一緒に体を使った遊びをのびのびと楽しむようになり、心の成長や友達関係づくりにもつながった。 ③新教育要領の「3つの柱」を観点として子供の姿を見極めることで教師の分析力や観察力が付いてきた。自分の保育を見直し、適切な援助や環境、教材など具体的に協議をすることが出来、職員の資質向上につながった。</p>

◎「3.4.」の評価結果の表示方法

A:十分に達成されている B:達成されている C:取り組まれているが、成果が十分でない D:取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
努力目標達成	各年齢に合った発達段階を見直し、制限された中での保育を振り返り、一人ひとりの成長や友達関係づくりにつなげる保育内容充実に取り組む。
危機管理体制の確立	緊急時における対応を迅速に行う為常に危機意識を持って取り組み、コロナ禍における生活を保護者と連携して進める。
職員の資質向上	育てたい力を見通して、実践力を高める園内研修の充実を図る。